

自治体の役割は市民のくらし・福祉をまもること

市民サービス削減におすびつく職員削減を進めていいのでしょうか？

「厚遇」どころか「官製ワーキングプア」

正規職員を減らす代わりに、「非正規職員を増やす」といいます。しかし、1年契約の初任給11万円台で、手当はもちろんなく、10年、20年と働いても退職金すら支給されない「非常勤職員」や、6か月以内の契約で、交通費すら全額支給されず、10年目でも1年目でも同じ給料という「アルバイト職員」、あわせて1500人を超える非正規職員がすでに市民サービスを支えています。

2008年9月21日付 読売



このような「官製ワーキングプア」が社会的な問題とされているにもかかわらず、吹田市はいま新たに非正規職員を増やそうとしているのです。

公務員の数は
少なければ少ないほど
いいのでしょうか？

市民サービス 低下まちがいなし

職員の数に単純に少なければいいわけではありません。市民サービスを提供する最前線の職員を削減すれば、ただちに市民サービスが低下します。

たとえば、保育・子育てや高齢者・障害者福祉・体育館や図書館など、これまで「福祉の吹田」といわれ全国的にも高く評価されてきた数々の事業が実施できなくなります。

大阪府下でも トップクラスの健全財政

大阪府が発表しているデータによれば、自治体の財政力を示す財政力指数は1.12700で、「財政力は豊か」であり、地方債の比率を示す公債費負担比率も9.3%と借金も少なく、将来に向けた財政の健全さも明らかです。

吹田市の財政は
そんなに厳しい
のでしょうか？

他市と比べても 高くない人件費

吹田市は人件費が高すぎるのでしょうか？決してそんなことはありません。人口1000人あたりの職員数は7.42人です。国家公務員と賃金を比べたラスパイレス指数でも100.2ですから、特別に職員数が多いわけでもなく、給料が高いわけでもありません。

吹田市の人件費が
高すぎる
のでしょうか？

職員削減は市民負担を 増やす口実にも?!



職員削減は市民サービス低下に直結するだけではありません。「市役所が身を削ったのだから、市民にも痛みを分かちあつてもらえ」ということになりかねません。

一方で大型の
プロジェクトには
5年で600億円

市長は「吹田を北大阪の玄関口」と、大型プロジェクトが目白押し。財政が厳しいわけでもないのに人件費を減らすのは、このような大規模事業にまわす財源を生み出すためではないのでしょうか？学校の耐震化など必要な公共事業をおさざりにした大規模事業は、将来に借金を残さないか不安です。

人件費削減は大規模事業の財源づくり?

東部拠点整備事業 57億円	千里山駅周辺整備事業 70億円
千里南地区センター再整備事業 98億円	西吹田駅前線立体交差事業 127億円
	廃棄物処理施設整備事業 256億円

市民の声が生きる地域密着の行政を

子育て支援、清掃業務などに「もっとこんなサービスを」と切実な市民の声がよせられています

「すいた市民新聞」によせられた市民の声

保育

- まもなく出産予定です。近所に親もないので心配でしたが、園庭開放など保育園に通っていないでも参加してよい輪があるので安心しました。
- 週3日以下の就労でも利用できる一時保育をもっと多くの保育園で実施してほしい。

ごみ収集

- カラスよけネットやコンテナをいつもたんでくださってありがとうございます。
- 高齢のため大型ごみを出し切れない。ふれあい収集は必要だと思います。

学童保育

- 人とのつながりが希薄になっている世の中、子どもたちには学童保育のような心の成長の場が必要です。
- 十分な人数の指導員さんのもと、子どもが安全にのびのびと放課後を過ごせる事業を続けていってほしい。

「行政は自分自身が市民の立場になってよいことはどんどん実現させてほしい」…市民から寄せられた声です。高齢者などのごみ出しを支援する「ふれあい収集」の実現、園庭開放など通いながれた保育園での一時保育の実施など、よりよい市民サービスを求める声はたくさんあります。いま市としてすべきことは職員削減ではなく、市民の声にこたえるサービスの拡充です。



「ふれあい収集」実現にも期待の声がよせられています